文系ラボ　日本史のテーマ史

日本史 農業・産業史 確認問題集

全19問　／　解答・解説は後半　　名前 _____

記事「日本史 農業・産業史まとめ｜二毛作から産業革命までの流れ」を読んだあとに解く問題集です。答えを書いてから後半の解答・解説で確かめ、間違えた問題は解説にある記事の節を読み直してください。

第1部　一問一答

問いに当てはまる語句を答えなさい。

1 弥生時代に、稲などの穂を一つずつ摘み取るのに使われた石器は何か。

2 草木を焼いた灰を田畑にまく、鎌倉時代の代表的な自給肥料は何か。

3 応仁の乱のあとに各地に広がった、月に6回開く定期市を何というか。

4 戦国大名が城下町を栄えさせるため、市場の税を免除し座の特権を認めなかった政策を何というか。

5 江戸時代、資金を持つ町人が開発を請け負って生まれた新田を何というか。

6 江戸時代に使われた、羽根車の風で籾殻やごみを吹き分ける選別の農具は何か。

7 豊後出身で、『農具便利論』や『広益国産考』を著した人物はだれか。

8 作業場に賃金で雇った労働者を集め、工程を分けて協力させる工業の形を何というか。

9 1880年に定められたが、条件が厳しくほとんど実現せず、1884年に廃止された官営事業の払下げの規則は何か。

10 1911年に公布され、12歳未満の就業を禁じ、年少者と女性の労働時間を最長12時間に制限した法律は何か。

第2部　正誤問題

次の文ア〜エのうち、誤っているものを1つ選びなさい。

11 中世の農業と商業について。

ア　鎌倉時代には、西日本で稲の裏作に麦などを作る二毛作が広がった。

イ　鎌倉時代には、月に3回開く定期市が各地に広まった。

ウ　座は、本所の保護を受ける代わりに座役を納め、営業の独占などの特権を得た。

エ　1577年に織田信長は、美濃の加納に楽市令を出した。

12 江戸時代の農業について。

ア　備中鍬は、刃が数本に分かれ、田を深く耕すのに使われた。

イ　千歯扱は、田に水を汲み上げる灌漑の農具である。

ウ　1697年に宮崎安貞の『農業全書』が刊行された。

エ　干鰯や油粕は、お金を払って買う金肥として使われた。

13 幕末から明治前期の産業について。

ア　開港後、生糸が最大の輸出品になった。

イ　1860年の五品江戸廻送令は、産地の商人や外国の反対で効果があがらなかった。

ウ　富岡製糸場は、イギリスの機械と技術を取り入れた官営模範工場である。

エ　富岡製糸場は、1893年に三井へ払い下げられた。

14 明治時代の産業革命について。

ア　大阪紡績会社は、蒸気力で動く機械を昼夜2交替で動かして大きな利益をあげた。

イ　紡績業の原料となった綿花は、主に国内産でまかなわれた。

ウ　1894年に、器械製糸の生産量が座繰製糸を上回った。

エ　八幡製鉄所は、中国の大冶鉄山の鉄鉱石を使った。

第3部　年代の並べ替え

次のア〜エを、古いものから年代順に並べなさい。

15 近世の農業と商業に関するできごとを年代順に並べなさい。

ア　株仲間が解散させられた。

イ　織田信長が安土の城下町に楽市令を出した。

ウ　宮崎安貞の『農業全書』が刊行された。

エ　五品江戸廻送令が出された。

16 明治時代の産業に関するできごとを年代順に並べなさい。

ア　大阪紡績会社が開業した。
イ　官営八幡製鉄所が操業を始めた。
ウ　富岡製糸場が開業した。
エ　工場払下げ概則が定められた。

17 生糸と綿糸に関するできごとを年代順に並べなさい。

ア　綿糸の輸出量が輸入量を上回った。
イ　生糸の輸出量が世界一になった。
ウ　綿糸の生産量が輸入量を上回った。
エ　器械製糸の生産量が座繰製糸を上回った。

第4部　論述問題

次の問いに答えなさい。字数は目安です。

18 江戸時代に金肥が広まった理由と、その結果を100字程度で説明しなさい。

19 紡績業と製糸業の違いを、原料と貿易での役割にふれながら120字程度で説明しなさい。

日本史 農業・産業史 確認問題集　解答・解説

第1部　一問一答

1 **石包丁**

収穫した稲は高床倉庫に蓄えました。初めのころの鍬や鋤は刃先まで木製だったことも、あわせて押さえておきましょう。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／古代

2 **草木灰**

山野で刈った草や柴をすきこむ刈敷とならぶ自給肥料です。江戸時代に広まった、お金で買う金肥と対比して覚えます。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／鎌倉時代

3 **六斎市**

鎌倉時代に広まったのは月3回の三斎市です。戦国大名も城下町を作るときに六斎市を開くことが多くありました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／室町時代

4 **楽市・楽座**

織田信長は1567年に美濃の加納に、1577年に安土の城下町に楽市令を出しました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／戦国〜安土桃山時代

5 **町人請負新田**

江戸時代の前期には、用水路の建設や干拓によって新田開発が進み、耕地の面積は2倍近くに増えたと推定されます。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代前期

6 **唐箕**

中国から伝わった道具です。斜めの網に穀粒を流してふるい分ける千石篩も、同じく選別の農具です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代前期（農具の表）

7 **大蔵永常**

1697年に『農業全書』を刊行した宮崎安貞と区別して覚えましょう。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代前期

8 **工場制手工業（マニュファクチュア）**

19世紀に入ると、和泉・尾張の綿織物や桐生・足利の絹織物、酒造業などで見られました。問屋制家内工業のあとに現れた形です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代中後期

9 **工場払下げ概則**

廃止後に払下げが本格化し、安く払下げを受けた三井・三菱などの政商は、のちに財閥へ成長しました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／幕末〜明治前期

10 **工場法**

施行は1916年で、適用されたのは15人以上が働く工場に限られました。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／明治中後期

第2部　正誤問題

11 **エ**

1577年の楽市令は安土の城下町に出されたものです。美濃の加納に楽市令が出されたのは1567年です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／戦国〜安土桃山時代、入試で狙われるポイント

12 **イ**

千歯扱は脱穀の農具です。足で羽根車を踏んで水を汲み上げる灌漑の農具は踏車です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代前期

13 **ウ**

富岡製糸場が取り入れたのはフランスの機械と技術です。イギリスの技術を取り入れたのは大阪紡績会社です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／幕末〜明治前期

14 **イ**

紡績業は、機械も原料の綿花も輸入に頼りました。国内の繭を原料としたのは製糸業です。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／明治中後期、比べて覚える

第3部　年代の並べ替え

15 **イ→ウ→ア→エ**

安土の楽市令（1577年）→『農業全書』（1697年）→株仲間の解散（1841年）→五品江戸廻送令（1860年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

16 **ウ→エ→ア→イ**

富岡製糸場の開業（1872年）→工場払下げ概則（1880年）→大阪紡績会社の開業（1883年）→八幡製鉄所の操業（1901年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）

17 **ウ→エ→ア→イ**

綿糸の生産量が輸入量を上回る（1890年）→器械製糸が座繰製糸を上回る（1894年）→綿糸の輸出量が輸入量を上回る（1897年）→生糸の輸出量が世界一（1909年）の順です。

記事の該当箇所：まず全体像（年表）、明治中後期

第4部　論述問題

18 **解答例：江戸時代には綿などの商品作物の栽培が広がり、効き目の強い肥料が必要になった。そこで干鰯や油粕など、商人から買う金肥が使われるようになった。その結果、農民は商人を通じて肥料を買うようになり、商業的な農業が発達した。**

採点のポイント：①商品作物の栽培の広がり、②干鰯・油粕などの金肥（お金で買う肥料）、③刈敷・草木灰などの自給肥料との違い、④商業的な農業の発達、が入っているか。

記事の該当箇所：時代ごとに詳しく見る／江戸時代前期、論述で使える要点

19 **解答例：紡績業は綿花から綿糸を作る産業で、機械も原料の綿花も輸入に頼ったが、1890年に生産量が輸入量を上回り、1897年には輸出量が輸入量を上回った。製糸業は国内の繭から生糸を作り、開港以来の最大の輸出品として外貨を稼いだ。**

採点のポイント：①紡績業は綿花→綿糸、原料は輸入、②製糸業は繭→生糸、原料は国産、③製糸業は外貨を稼ぐ輸出産業、の3点が入っているか。1890年と1897年の区別まで書けるとさらによい。

記事の該当箇所：比べて覚える

記事：日本史 農業・産業史まとめ｜二毛作から産業革命までの流れ　https://lawcityblog.com/nihonshi-theme-nogyo-sangyo/
問題・解説は文系ラボのオリジナルです。無断転載を禁じます。